

実施の目的

○大阪府教育委員会、市町村教育委員会及び学校が、生徒の学力の状況をつかむことで、教育の成果と課題を明らかにし、今後の教育にかします。

○生徒のみなさんが、自分の学習の到達状況を正しく知ることにより、自分の学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高めます。

○大阪府教育委員会が、調査結果を使って、大阪府公立高等学校入学者選抜の調査書に記載する評定が、公平性の高いものであるかどうかを確認する資料を作成し、市町村教育委員会と学校に提供します。

「大阪府教育委員会 生徒・保護者向けリーフレット」より

実施内容

★実施日 令和5年9月5日（火）

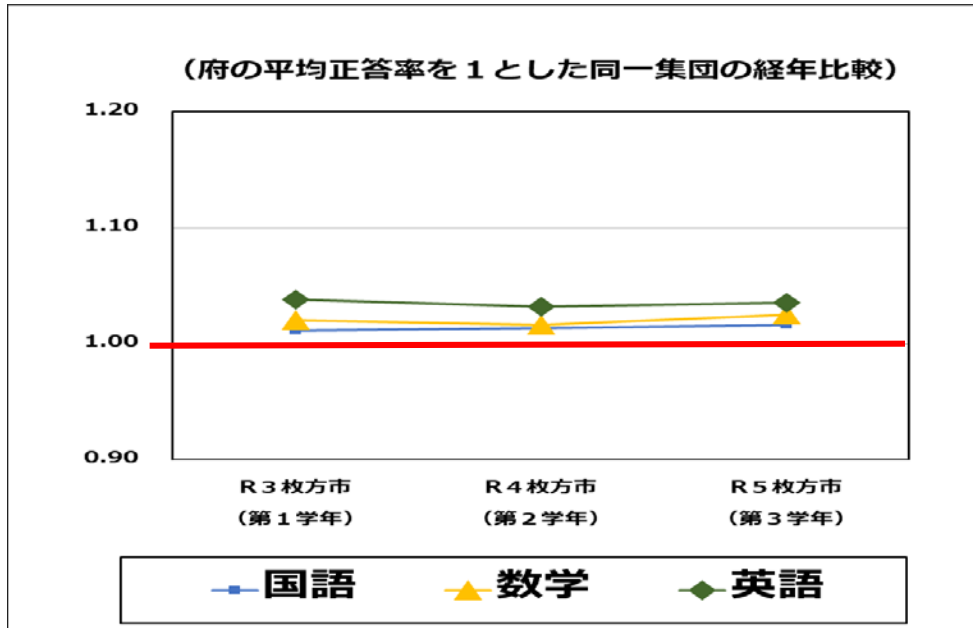
★教科 国語、社会、数学、理科、英語
（英語はリスニング問題を含む）
※理科は、「A 問題」、「B 問題」、「C 問題」の3種類があり、各学校は、自校の学習進度等に応じていずれかを選択します。

★出題形式

- ・選択式問題（選択肢から選んで答える問題）
- ・短答式問題（短い語句や数値等で答える問題）
- ・記述式問題（長い語句や文章等で答える問題）

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 概要>

同一集団の経年比較



	R3枚方市 (第1学年)	R4枚方市 (第2学年)	R5枚方市 (第3学年)
国語	1.01	1.01	1.02
数学	1.02	1.02	1.02
英語	1.04	1.03	1.04

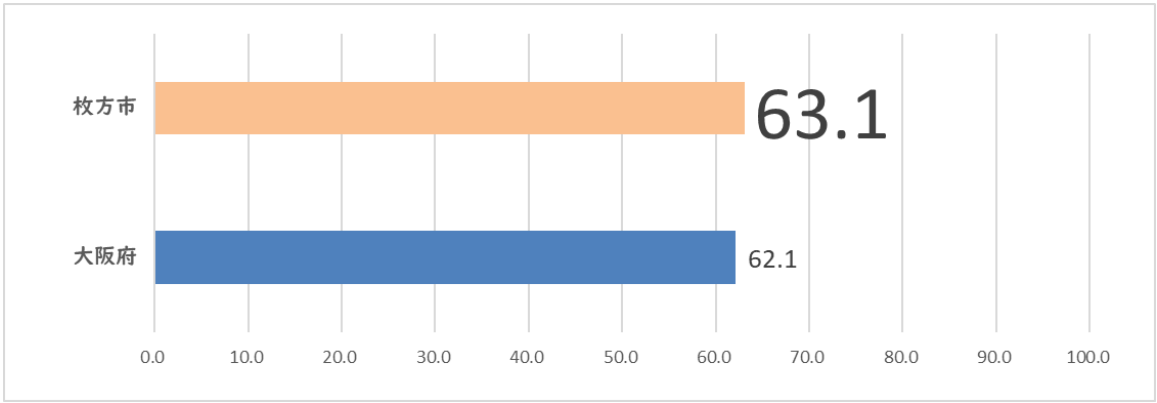
平均点

	枚方市	大阪府
国語	63.1	62.1
社会	55.5	54.7
数学	53.5	52.2
理科C	48.3	47.6
英語	56.1	54.2

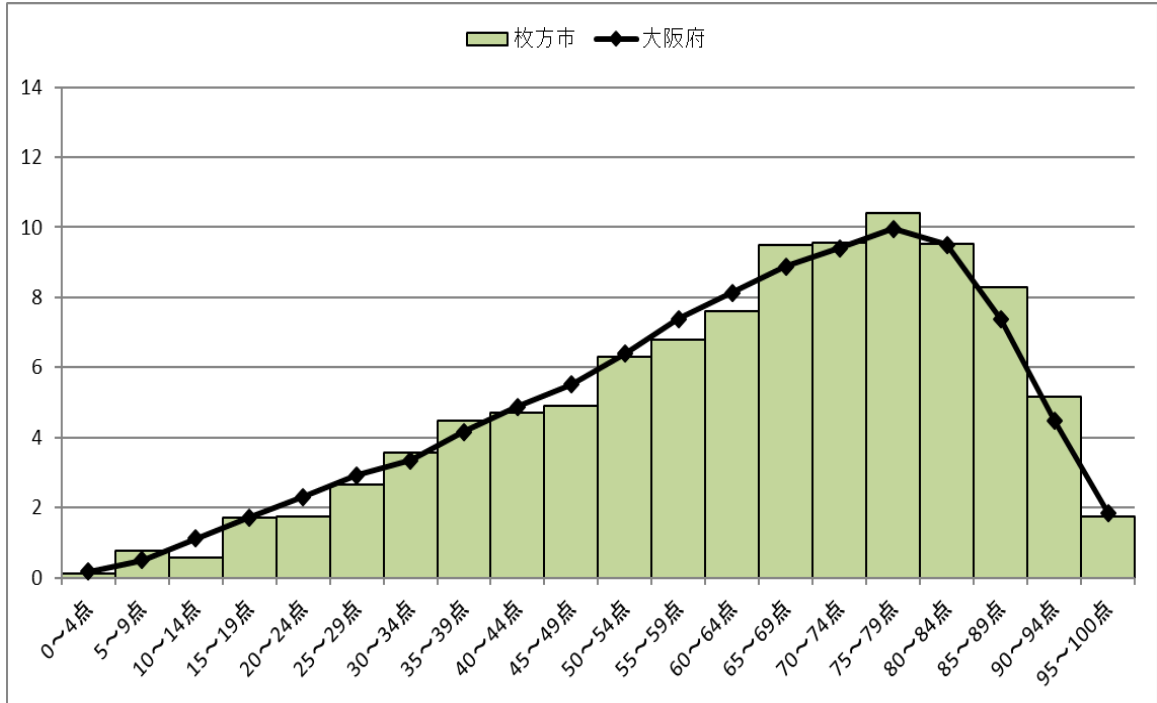
理科Aについては、選択した学校が1校しかいないため平均点を掲載しません。
理科Bについては、選択した学校がなかったため掲載しません。

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 国語>

平均点



正答数分布



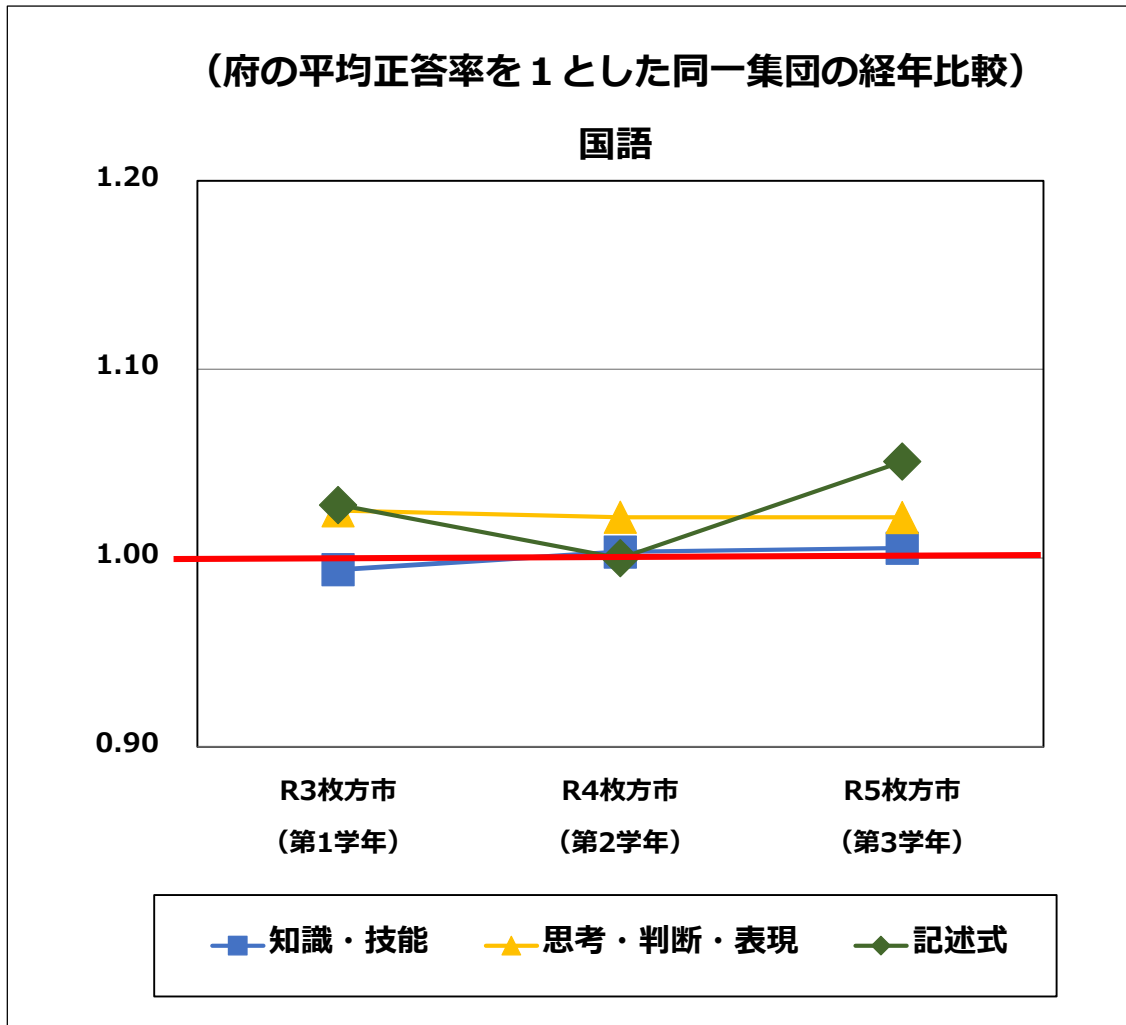
分類・区分別集計結果

分類		区分	配点	大阪府	枚方市
学習指導要領の領域等別平均点	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	26	18.4	18.6
		情報の扱い方に関する事項	9	2.3	2.4
		我が国の言語文化に関する事項	20	10.2	10.1
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	15	6.4	6.8
		書くこと	24	16.6	17.2
		読むこと	28	17.4	17.3
評価の観点別平均点	知識・技能	55	30.9	31.1	
	思考・判断・表現	67	40.4	41.2	
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—	
問題形式別平均点	選択式	45	30.2	30.5	
	短答式	41	25.3	25.7	
	記述式	14	6.6	7.0	

※1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の設問数や平均点等を合計した値が、実際の設問数や平均点等と一致しない場合があります。

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 国語>

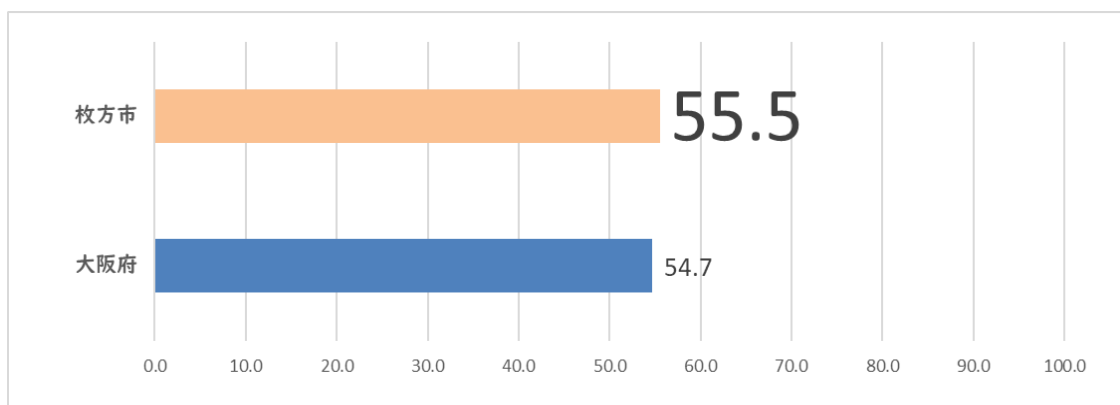
同一集団の経年比較



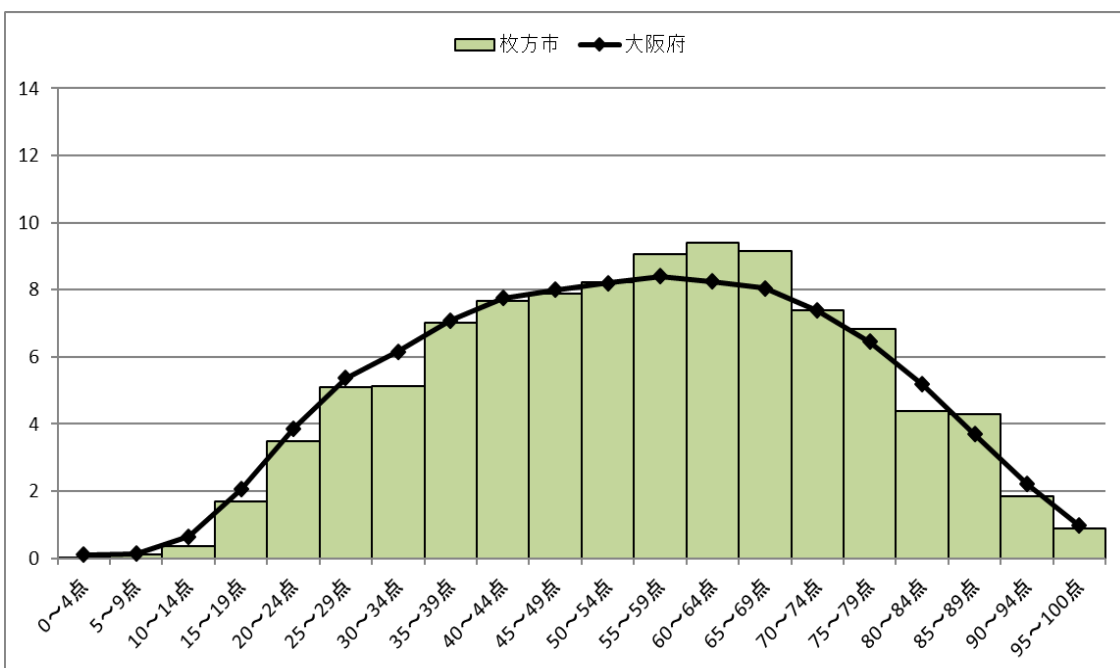
教科	R3枚方市 (第1学年)	R4枚方市 (第2学年)	R5枚方市 (第3学年)
知識・技能	0.99	1.00	1.01
思考・判断・表現	1.03	1.02	1.02
記述式	1.03	1.00	1.05

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 社会>

平均点



正答数分布



分類・区別集計結果

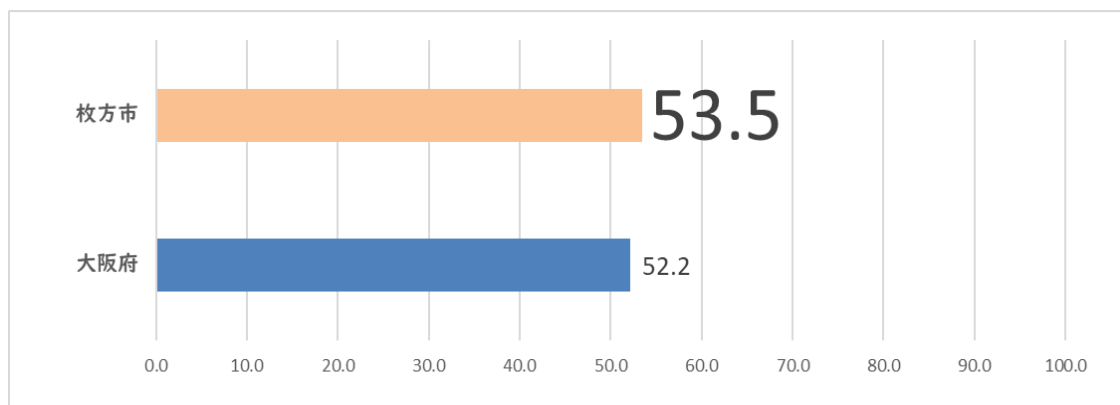
分類	区分	配点	大阪府	枚方市
学習指導要領の領域等別平均点	地理的分野	55	33.1	33.9
	歴史的分野	45	21.5	21.7
評価の観点別平均点	知識・技能	75	42.2	42.6
	思考・判断・表現	25	12.5	13.0
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式別平均点	選択式	80	40.9	41.6
	短答式	12	9.2	9.2
	記述式	8	4.6	4.8

※1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の設問数や平均点等を合計した値が、実際の設問数や平均点等と一致しない場合があります。

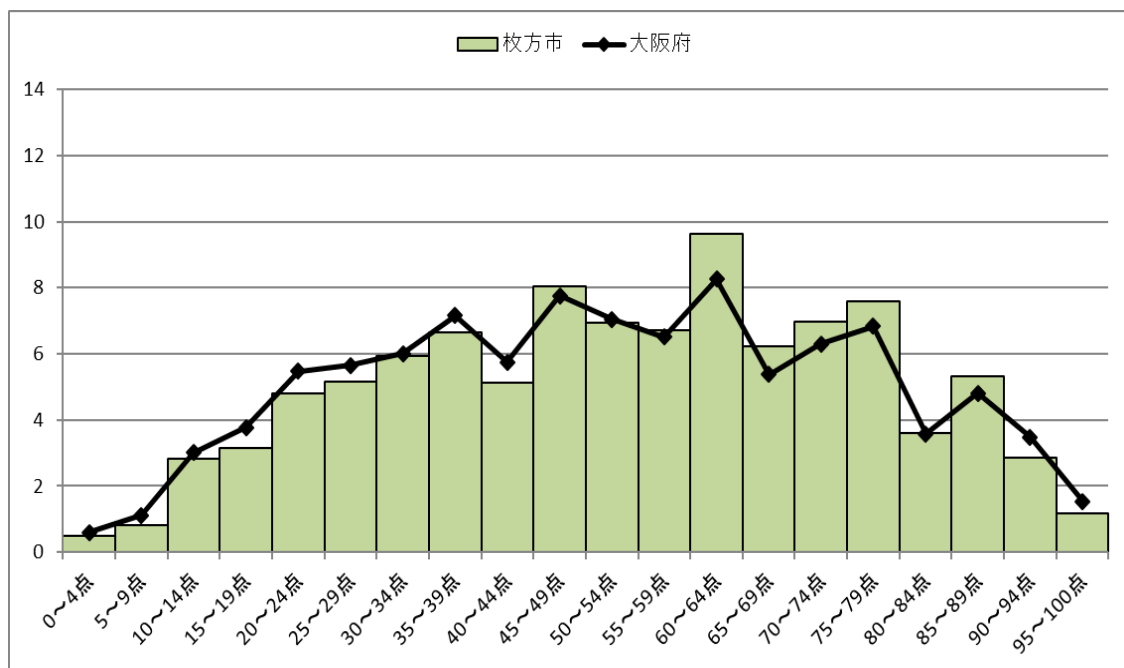
※「同一集団の経年比較」については、2年次にA・Bと問題が分かれており、比較できないため掲載していません。

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 数学>

平均点



正答数分布

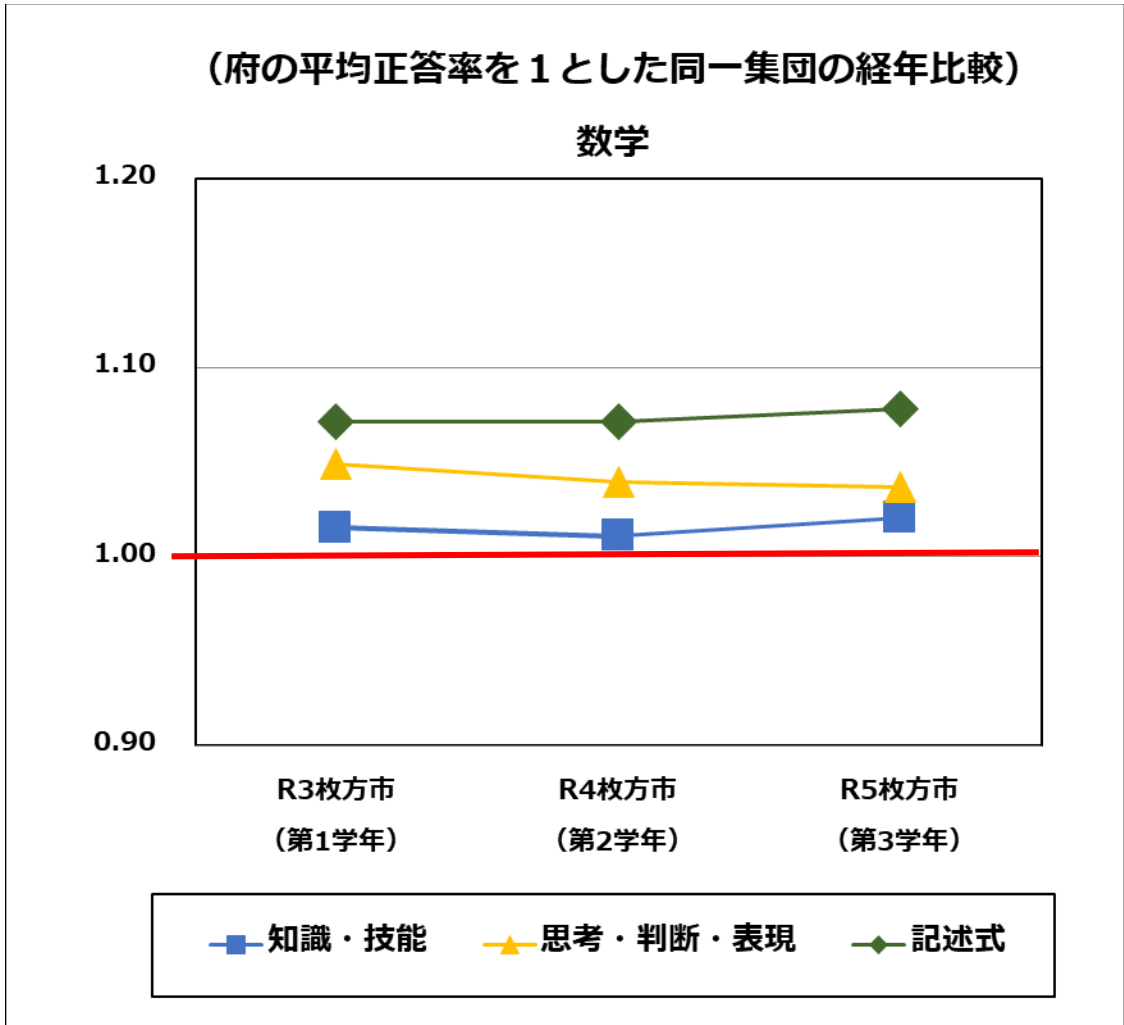


分類・区分別 集計結果

分類	区分	配点	大阪府	枚方市
学習指導要領の 領域等別平均点	数と式	28	15.7	16.2
	図形	28	15.7	16.1
	関数	25	10.0	10.4
	データの活用	19	10.8	10.7
評価の観点別平均点	知識・技能	64	38.0	38.8
	思考・判断・表現	36	14.2	14.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式別平均点	選択式	41	22.5	22.6
	短答式	53	28.0	29.1
	記述式	6	1.7	1.8

※1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の設問数や平均点等を合計した値が、実際の設問数や平均点等と一致しない場合があります。

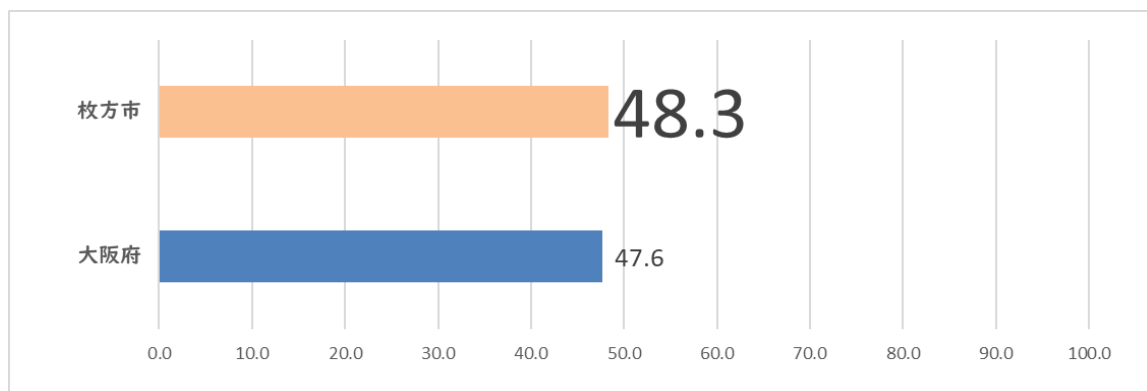
同一集団の経年比較



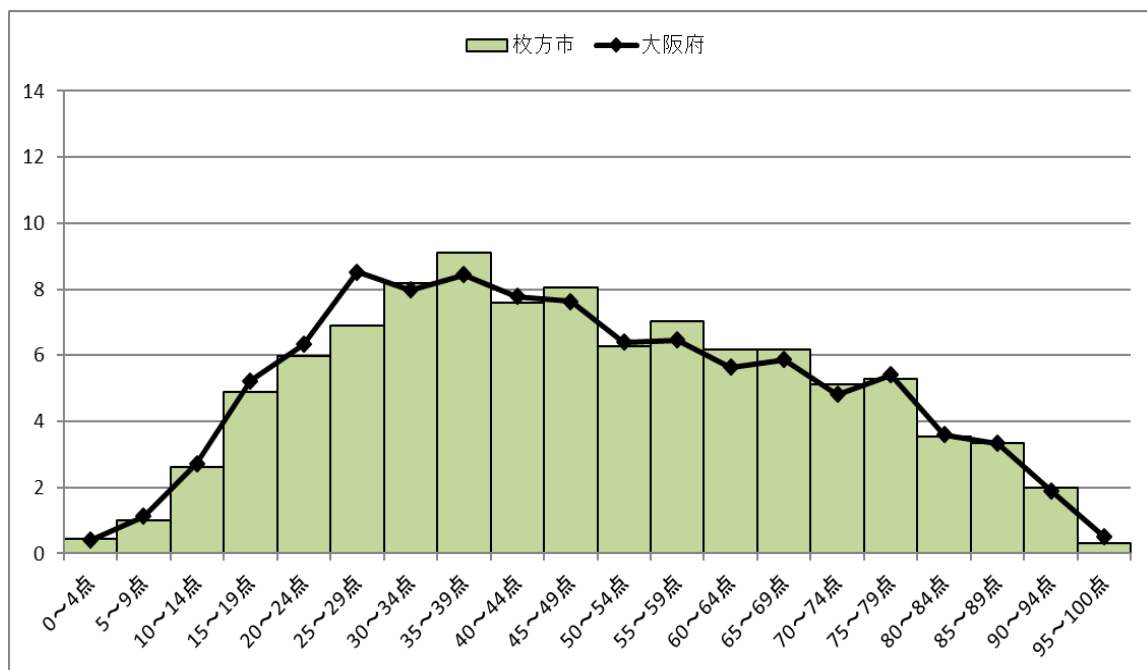
教科	R3枚方市 (第1学年)	R4枚方市 (第2学年)	R5枚方市 (第3学年)
知識・技能	1.02	1.01	1.02
思考・判断・表現	1.05	1.04	1.04
記述式	1.07	1.07	1.08

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 理科C>

平均点



正答数分布



分類・区分別集計結果

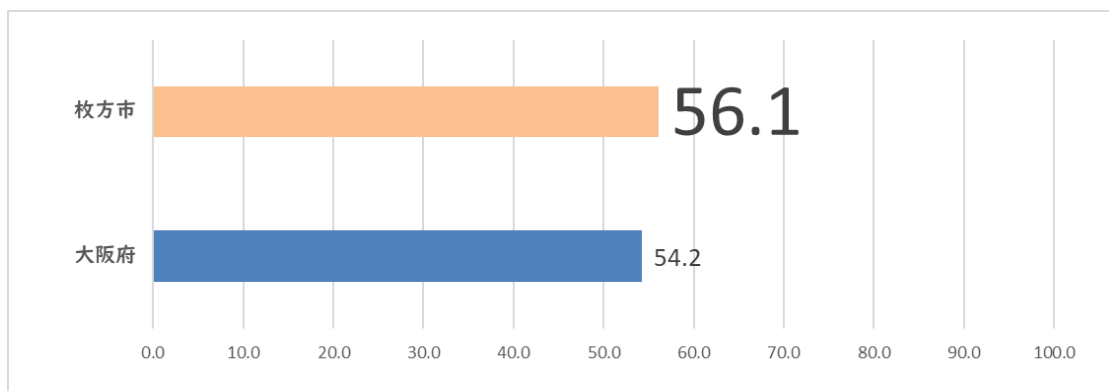
分類	区分	配点	大阪府	枚方市
学習指導要領の領域等別平均点	「エネルギー」	20	8.6	9.0
	「粒子」	20	9.9	10.0
	「生命」	40	20.4	20.5
	「地球」	20	8.7	8.7
評価の観点別平均点	知識・技能	60	33.2	33.6
	思考・判断・表現	40	14.5	14.7
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式別平均点	選択式	52	27.5	27.8
	短答式	40	18.4	18.7
	記述式	8	1.7	1.8

※1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の設問数や平均点等を合計した値が、実際の設問数や平均点等と一致しない場合があります。

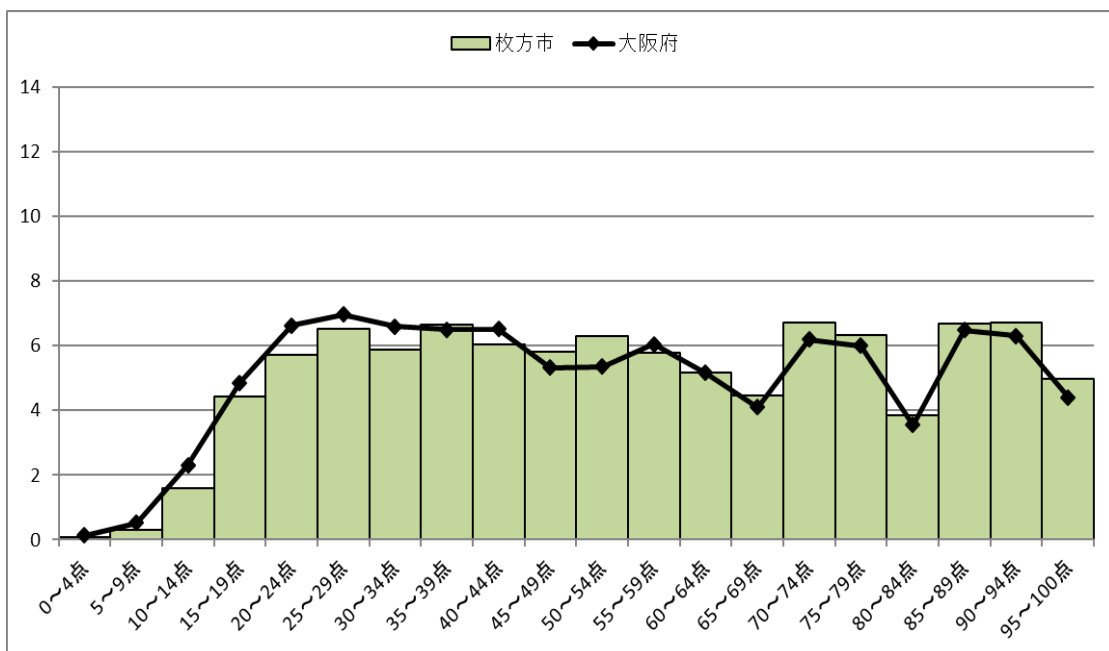
※「同一集団の経年比較」については、2年次にA・Bと問題が分かれており、比較できないため掲載していません。

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果<第3学年 英語>

平均点



正答数分布

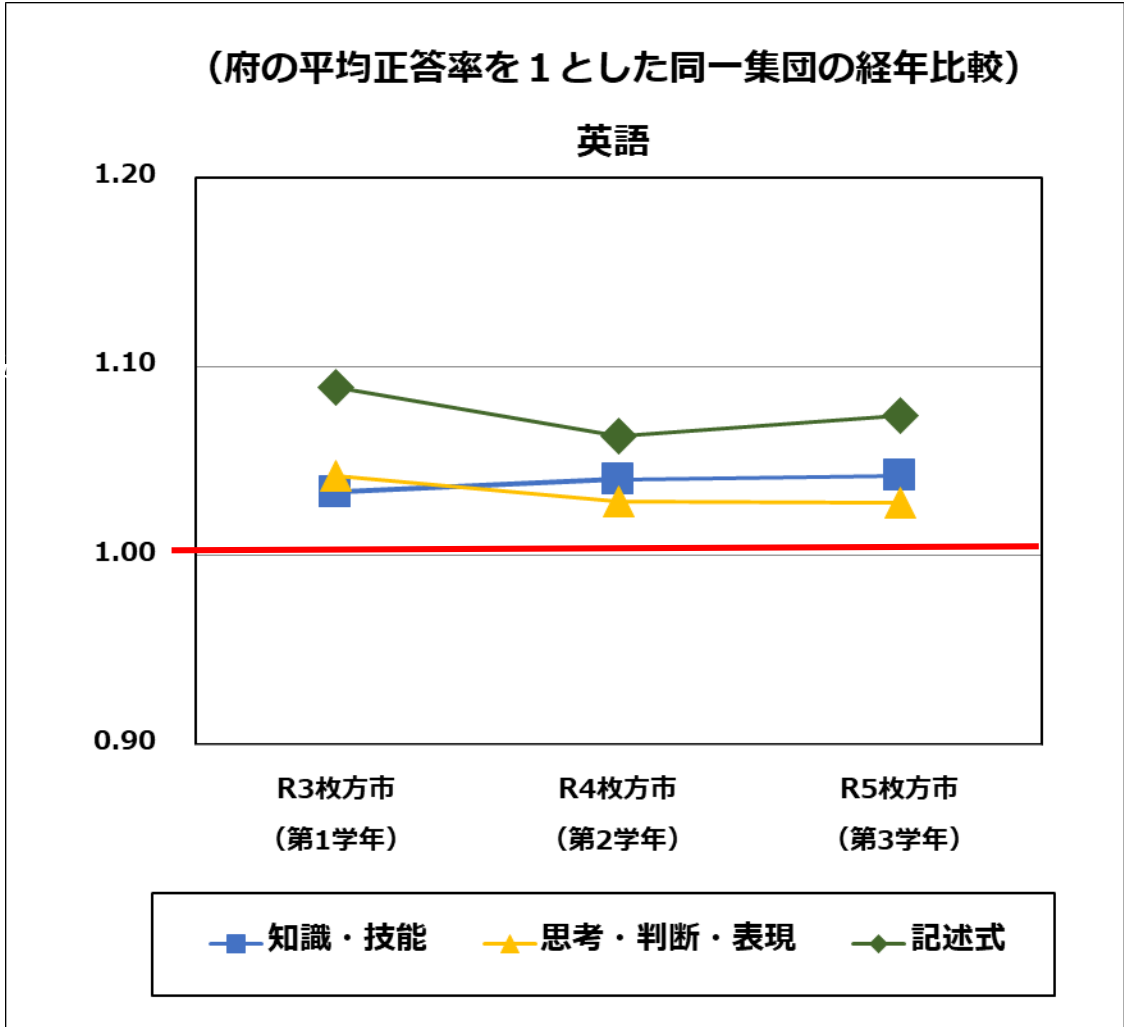


分類・区分別集計結果

分類	区分	配点	大阪府	枚方市
学習指導要領の領域等別平均点	聞くこと	26	17.5	18.1
	読むこと	32	18.6	19.0
	話すこと [やり取り]	—	—	—
	話すこと [発表]	—	—	—
	書くこと	42	18.1	19.1
評価の観点別平均点	知識・技能	52	26.0	27.1
	思考・判断・表現	48	28.2	29.0
	主体的に学習に取り組む態度	—	—	—
問題形式別平均点	選択式	70	44.8	46.0
	短答式	—	—	—
	記述式	30	9.4	10.1

※1つの設問が複数の区分に該当することがあるため、それぞれの分類について各区分の設問数や平均点等を合計した値が、実際の設問数や平均点等と一致しない場合があります。

同一集団の経年比較



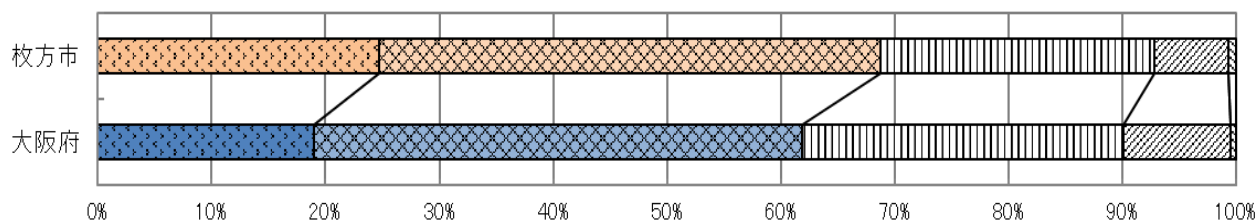
教科	R3枚方市 (第1学年)	R4枚方市 (第2学年)	R5枚方市 (第3学年)
知識・技能	1.03	1.04	1.04
思考・判断・表現	1.04	1.03	1.03
記述式	1.09	1.06	1.07

令和5年度 中学生チャレンジテストの結果 <質問紙調査>

アンケート結果

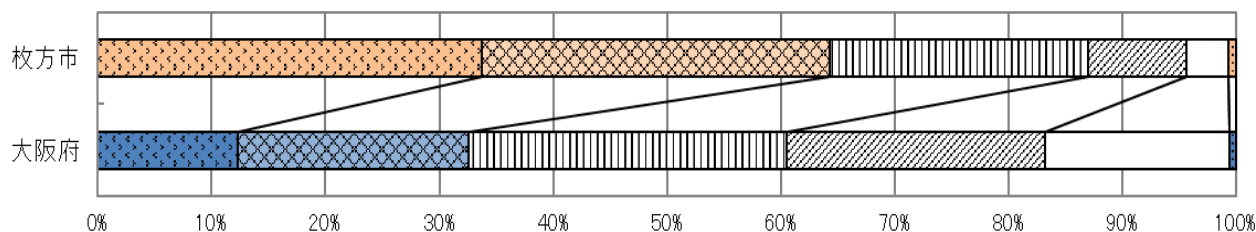
授業中、思考ツールを使うなどして、自分の考えを整理したりまとめたりする場面がある。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



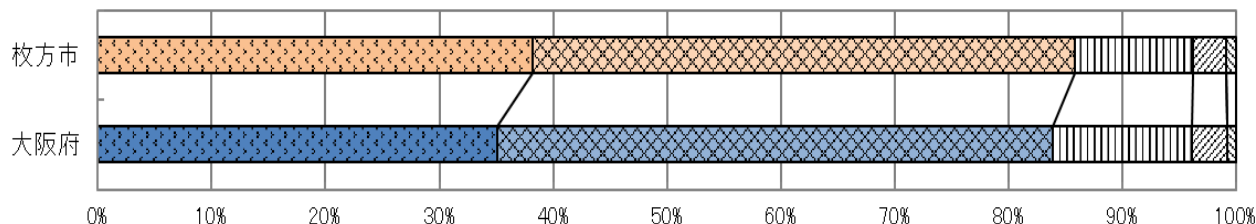
授業中、PC・タブレットを使って、学級の友だちと意見を交換する場面はどれくらいありますか。

□1. ほぼ毎日 □2. 週3回以上 □3. 週1回以上 □4. 月1回以上 □5. 月1回より少ない □その他 □無回答



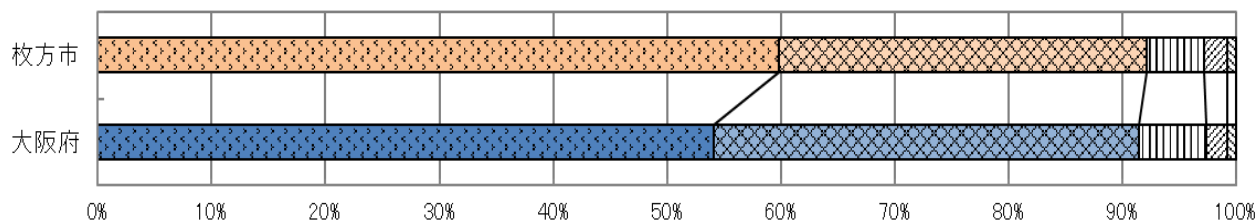
あなたの学級は、違った考えや意見を受け入れる雰囲気がある。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



学校などで、他の人と協力し合うことができる。

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



枚方市が大切にしている5つのCの視点

いずれの教科も**大阪府の平均点を上回る**結果となりました。

ICT機器を活用した学習や協力し合い認め合うことに関する項目で、**大阪府の平均を上回る**結果となりました。今後も、ICT機器を効果的に活用しながら、個に応じた学習活動・学習支援の充実を図っていきます。

枚方市では、学習指導要領が示す、これからの子どもたちに必要な資質・能力を育成するために、Cから始まる5つの視点を大切にします。1人1台のタブレット端末を活用し、5つのCの視点を意識し、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身につけていきます。

Challenge チャレンジ 挑戦

学校生活の中で、課題を解決したり、目的を達成したりするために、困難な問題や未経験のこと等に積極的に取り組みます。また、自分自身で新たな課題を発見します。

問題発見
問題解決



家庭学習
学習習慣

粘り強さ
積極性

Communication コミュニケーション 意思伝達

相手の立場を意識しながら、自分の考えを相手にわかりやすく、効果的に伝えます。また、相手の意見や考えを正しく理解するために聴きます。

発表
プレゼン
テーション



遠隔授業
オンライン

対話
議論
意見交流

Collaboration コラボレーション 協働

課題を解決したり目的を達成したりするために、自分と異なる考え方を持つ人を尊重し、認め合いながら協力して取り組みます。

多様な
考えの尊重



連携
協働制作

Creativity クリエイティビティ 創造

課題や目的を解決するための柔軟なアイデアを表現します。また、アイデアを相手と共有することで、より深まりのあるアイデアを創り出します。

創造



表現
制作

アイデア
の共有

Critical thinking クリティカルシンキング 思考・判断

物事を多面的な視点からとらえながら、調べた内容や相手の意見などの情報を正しく判断するために、その理由や事実と矛盾がないかどうかについて、自ら考え、分析し、判断します。

批判的
思考



情報分析
判断

枚方版ICT教育モデル



大阪府教育庁ホームページより

令和5年度中学生チャレンジテストの実施について

- 実施概要
- 実施要領
- 実施にあたってのリーフレット



令和5年度中学生チャレンジテストの問題について

- 問題の内容
- 正答例

